（大正十二年十一月八日第三種郵便物認可）　昭和十四年六月十五日　常磐毎日新聞　〔木曜日〕　第四千五百二十三號　【一】

常磐毎日新聞

六月十四日夕刊

常磐毎日新聞社
常磐毎日印刷株式會社
電話 六三〇番

百億貯蓄の—

市民擧つて
目的達成に進め
明日からの強調週間に
市當局數々の催し

聖戰の目的達成に備へ七千萬同胞が勝て兜の緒を締めよ〃百億貯蓄〃の強調週間は愈よ明十五日から行はれるので市當局では期間中各種團體を總動員して先づ國民貯蓄組合結成の普及徹底簡易保險增加の運動を起し大いに拍車をかける事になつたがその第一日目の明十五日には兒童達の手を通じ家庭へ〃擧つて百億貯蓄に邁進せよ〃と呼びかける外各種團體が街頭デモを敢行辻々に於て通行者へビラを配布大いに強調に努める事となつてゐる尙市當局からかねて達しを受けてる市內各區でも組合會や有志會を開き貯蓄の向上を期してゐる

公會堂日本間で
貯蓄獎勵の座談會

平市では十九日午後一時から公會堂日本間に行政區長、振興委員、市議、官衙長主任、學校長、會社工場長、銀行金融關係者、各種團體長、商工會、貯蓄組合長等の出席を求め貯蓄獎勵座談會を開くことになつた

第一第二東日本丸
遠洋をめざして
近く母港出帆
先進地を凌駕する
豊漁續きに濱に凱歌は擧る

小名濱町東日本漁業株式會社では曩きに東日本丸を建造し毎航海大漁凱歌を擧げて歸港する所から愈よ時代は近海漁は業終焉を告げ遠洋漁業化された事を充分認識した該會社々長水野政次郎氏外重役は第二段階として更に遠洋漁業船物色中氣仙沼に於て共盛丸を手に入れ去十一日に小名濱港に回航し目下乘込員漁具一切の準備中第一東日本丸よりは無電で十一日歸港の途に就いたとの通電あつた爲め二十日頃の入港と見て第二東日本丸としての共盛丸は愈よ第一東日本丸と舳艫相銜んで遠洋に雄飛するの日が目捷に迫つた

トマトの青枯れ
豫防はこれが一番
……と農試分場の發表

トマトの大敵青枯につき神谷農試分場では豫防には畦立ての改良か一番必要であるとその研究を發表

平畦、揚畦、土寄せの三種につき研究を進めたところ矢張り平畦が一番わるく、次が揚げ畦で一番よいのは土寄せであつた、即ち適當な養分と土を莖のどこからでも根を下ろすといふ特性を利用し發育に應じて根に土をかぶせてゆくのが土寄せ法であるこれによれば發育は非常によく殆ど一本の青枯もなかつたといふ好成績である

軍事扶助を辭退して
せつせと稼ぐ

錦村字大倉吉田部隊太平新二軍曹の妻とみこさん(三五)は夫とその弟直人が從軍後は唯一の男手老父末吉さん(六六)を助けて水田九反歩、畑地四反歩を小作し軍事扶助料をうけては夫に申譯ないとて肥料代や馬耕料の節約をはかるため手耕で押通し、草肥をつくりその努力は部落民を驚嘆させてゐる

なほ二年間毎朝四時縣社熊野神社に素足參りをして夫と弟達の武運を祈願してをり家族は父末吉さん、母カネさん(五九)長女洋女さん(三)がゐる

入梅は名のみで
「——このまゝ夏を迎へる……？」

梅雨時機に這入つて餘りに降雨もなく毎日グヅツいて茲四五日は天氣恢復もどうかと思ふ上に又降雨となる見込みも立たずさりとて氣壓の配置はどうかと測候所に質せば夏の高氣壓は南方が高く北方が低いのが夏の形であるか茲數日間は北ベーリング海峽から南小笠原島にかけて何れも高氣壓が頑張つて居るので其中間たる小名濱などが此陰鬱な天氣がつゞくのだこれが北の方が勢力あれば梅雨的に本格となるのだがそれが却つて南の方が勢力を張つて居るので案外夏の形になり安い或は小雨處で天氣は此儘夏に入るとも思はれる云々

夏休を利用
就職希望兒童を各所に配置

平職業紹介所では現下の時局に鑑み夏季休暇を利用して管內各小學兒童を適材適所に配置し國家總力の發揮をなす意味で就職希望兒童に對する職業補導を徹底併せて個性に適合する職業を選擇せしめることになり目下各校と連絡をとり準備を進めてゐる

水がなくて
田植えが出來ず
雨乞ひの騷ぎが起り相

雨のない入梅で連日旱天續きのため郡下各河川はカラ〳〵に干上り田植に直面して一部農家では少なからず惱まされ雨乞ひをする始末にあるが市內でも九品寺裏の水田は底の見いる用水堀から桶で田へ給水してる狀態で〃雨がないかナー〃と天を仰いで長嘆息をもらしてゐる

密ハチが結ぶ
日◇米◇親◇善
錦校でスミス氏へ感謝

錦村小學校では昨年五月アメリカ合衆國フロリダのヂエス・ミス蜜蜂研究所へイタリアン改良種ヂエ・スミス女王蜂一匹を注文したが輸送船中で死んでしまつたのでこの旨通知したところ〃蜜蜂研究を通しての日米親善だ〃と研究所主スミス氏から女王蜂二匹を寄贈して來た、感激した錦校では蜜蜂の改良をはかり同氏の厚意に感謝することになつたが

このヂエ・スミス種の民間飼養は全國でも珍しいものとされてゐる

なほ錦校では關部、小野兩訓導の指導で校內に十五群の蜜蜂を飼養また地方飼養者を指導してゐる

理髮試驗
平から三十名

本年度理髮試驗は明十五日から十六日にかけ郡山市公會堂で施行されるが平署管內の受驗者は三十名である

破藏の弘法さま
身柄を棚倉署へ

既報、先頃平署に逮捕された破藏犯人〃弘法さま〃こと添田力藏(五六)は其後引續き取調べを受けてゐたが東白川郡下で數件の詐欺を働いた事が判明この程身柄を棚倉署へ護送した

印刷の御用は
常磐毎日印刷株式會社へ
電話六三〇番

小名濱支局通信

新綠の渡邊村を尋ねて（三）

支局長 小野 務平

諏訪山頭幾多の老杉古松は連峰の翠蒼に遜れず鬱蒼として靈氣を堪へ窈盈たる雰圍氣の中に襟を正ふするを覺へた、一歩遠かれば更に聖域の巍然として衆峰を睥するに足る偉容を拜するに充分であつた

道は右折左曲の間道を辿つて柴田梅溪君の門を叩く事とした、柴田君は多年縣教育界に教鞭を採り殊に我小名濱校には功績を殘された歷史を以て居る、渡邊村を尋ね君の門を叩かさるは諏訪社前を過ぎて參拜せざると同樣、國家意識を失ふと見て大差がないと極論したい兎も角柴田君に會見を樂しみとして門戶を叩いたのであつた

君の邸宅は諏訪山と相對して釜戶川の淸流を挾みて對岸の高邸これ亦古木老樹を以て宅地を圍む隔與鄕を形る地點である釜戶川に注ぐ小釜戶川は君の邸宅を繞つて淸冽極まり磐流が針さへ拾に易い透明さを示して滾々として流れて居る、當橋とも云ふべき渡橋は幾代か以前に裕福に任せて架したらうと思ふ豪奢の橋梁さへ殘つて居る古色を見るを得る、愈々渡つて屋敷內に入れば白亞に塗りくるめた倉庫、を右に、左は君の住宅昔ながらの萱葺きではあるが其雄壯さは一見舊家にして門地の低くからざるを物語つて居る

庭前の不樹止に開かんとする花は濃紅を呈し客待顏に迎ふるか如く百花咲き亂たる後に獨り芍藥が晩春の殿りを承つて誇り額に今を盛りに咲いて居る千年を讃ふ遠松は初夏の自然に迎ふ新芽を威勢能く空を衝いて居る更に遂を極めた奧庭の一隅にはを飾る倉庫が建てられて居る

どう見ても柴田家の繁昌は君に初つたのではなく幾代か以前から地方に於けるネッコ大盡として郷土の重鎭であつた事を察するに充分である、更に首を回らせば猶更その感を深くするを覺へた

所で滴麗たる玄關に依つて來訪を告ぐれば內に聲なくして臺所よりは二頭の豹がイト狎れ〳〵ワンともスウとも言はすに飛び出して來た、柴田君初め不在なる事を知つた

膠十里を遠しとせず尋ね來つて高說だに聞かず立ち還るは殘念なりと表緣側に腰を降ろして先づ庭園を眺めた更に奧座敷緣側に腰を降ろして先づ庭園を眺めたこ更に奧座敷緣側に廻つて腰を降せば諏訪山頭翠煙高く雨後の嵐氣と相和して一層の靈威を加へ忽ちにして敬虔の迫るものあるを覺へた

眼を轉ずれば一畔の中水田に出でゝ農村青少年の耕耘の狀手に取るが如く集め得る、是ぞ眞箇風塵圖外の仙境の中に居るではなからうかと我は吾を疑つたのであつた（未完）

藺增產歌で
農事勤勞班活動

山田山田村農事勤勞班では石川技術員作の〃山田村藺增產歌〃の歌を露營の歌の節で合唱しながら出征軍人家族の稼藺、田植ゑ等の手傳ひに勢ひを出してゐる、歌詞は

一、國を擧げての戰に、なんで銃後のわれ〳〵が、つとめ果さでをりようか、劍を持つて立たねども、心は同じ國の爲

二、いかに苦しいその時も、堪へつとめた蠶糸業、時が來ましたこの時局、藺を澤山獲り增して、國のお役に立ちませう

平保健所の
第二回乳兒檢診

平保健所では七月一日から管內各市町村における乳兒の第二回檢診を行ふがこの日割は左の如くである

△七月一日平市平窪方部△二日高久△四日玉川△七、九日勿來△十一日夏井△十三、四日泉△十五日錦△十四、十六日小名濱△十七、八日入遠野△十八日鹿島△二十一、二日江名△二十五、八、九、三十日湯本△八月四、五日植田△八十五日上下小川△十一、三日好間△二十五、六日磐崎△九月一、三日田人外三ケ村組合△五日飯野△八、九日箕輪、永戶組合△十二日豊間△十五六日上遠野△十九日神谷△二十九日渡邊△三十日川部

村民の感激
川部校農事勤勞班活躍

郡下川部小學校高等科兒童達は〃少年農事勤勞班〃を組織し五日農休暇に入ると共に各班にわかれ村內農家の勞力不足調整に乘出し畔の土ふみ、推肥まき、田耕、桑摘み等々終日大汗だくである家庭によつてはその家庭に住み込み發繭手傳ひその他に徹宵勤勞にいそしみ村民を感激させてゐる

錦校で
葉煙草栽培

錦小學校ではこんど郡山煙草專賣局奬勵の葉煙草ホワイトバーレー種を學校地一反歩に植付け地方煙草耕作者を指導することになつた

三井氏に
褒賞傳達

平市出身の鑛山王三井榮一氏は市公會の建築費に私財一萬圓を寄附したがこの程紺綬褒賞を授與されたので近く市役所から傳達することになつた

馬の生產
能率增進

縣產馬畜產組合聯合會主催の馬生產率增進講習會は十五、六の兩日上遠野村種付所で開催されるが講師は河原田技師、受講者は百餘名に上る見込みである

小林上等兵
母校へ
青龍刀寄贈

勿來町窪田出身秋元正部隊小林上等兵は出征以來十八回の激戰に參加赫々たる武勳をたてこの程歸還したが十三日「一月一日の石家莊附近の戰鬪で約十倍の敵と白兵戰を演じた際敵兵四名を突き殺し分捕つたものですが」と一記念の青龍刀を勿來小學校に寄附した

珍・ウヅラ
のちやぼ
小野訓導が寄贈

錦村小學校小野仁平訓導は東北地方で珍しい土佐產の鷄、鷄ちやぼを十三日小學校に寄贈した、鷄ちやぼは尾が全くなく現在では土佐でも數少く天然記念物に指定されてゐるもので小野訓導は東京在住の叔父尾城武男氏から教材として贈られたものである

〇〇罰金

勿來町大字窪田古物商木原茂之途(五〇)は十四日平區から古物商違反で略式罰金十圓に處された

德富翁講演會
十八日公會堂で

磐城蘇峰會主催德富蘇峰翁の講演會は十八日午後二時から平市公會堂で開催される

電具商組合結成 平市の電機具、ラヂオ、電動機、配線工事請負業者二十餘名はこの程電機器具商業組合を組織することゝなり目下準備を進めてゐるが創立總會は今月下旬開く豫定

平市人事

◎出生

△久保町目下湯本町天王崎一四渡邊要氏六女和子さん

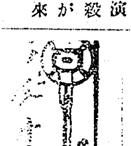
◎婚姻

△四倉町字新町三田邊初藏氏(二九)南町一一新妻イクさん(二七)

△揺槌小路五仲居美一氏(二七)福岡縣糸島郡前原町一、七三七藤原ヨシ子さん(二二)

△東京市麹町區越町四ノ

七稻村榮次郎氏(二四)白銀町九北川マサノさん(二二)



JOHK

今晩の部

▼後六、〇〇 子供の時間 世界の名作から(六)資島(二)北村大榮外
▼後六、二五 「言葉づかひの敎育」文博新村出
▼後七、三〇 講演大藏政務次官松村光三
▼後七、四〇 講演太田哲三
▼後八、〇〇 現代日本の詩歌 河井醉茗作品一渡酸漿其他(獨唱)加藤千惠、水野康孝
▼後八、四〇 淸元「鞍馬獅子」(淨瑠璃)淸元梅壽太夫外
▼後九、〇〇 連續小作「街」(七)阿部知二作森雅之外

明日の部

▼前九、四五 幼兒の時間 連續童話「時計のし〳〵くれたお話」吉田テルチ
▼前一〇、二〇 家庭の時間「強心劑の話」
▼後〇、〇五 トーキー音樂 獨唱シヤアリー・テンプル
▼後三、〇〇 家庭の時間「其の後の新興代用品」
▼後五、三〇 講演 松平正壽
▼後六、〇〇 ラヂオ理科敎室 東京市菊川小學校兒童
▼後七、三〇 國民歌謠
▼後七、四〇 講演 賀屋興宣
▼後八、〇〇 室內樂
▼後八、四〇 合唱歌劇タンホイザーの中より 仙臺聯合合唱團
▼後九、〇〇 連續小說「街」森雅之外

國旗と提灯

鈴木醫院
平市田町
電話五八番

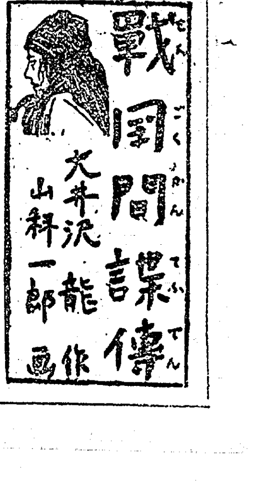
▽是非！
御融通には御用命下さい萬事便利な御相談に應じます
公債、債券、質物一般
三井質店
平四 電話六〇六番

耳鼻咽喉科專門
大和田醫院
平市南町一六（電話一七〇番）

鑑定
住宅家相の設計製圖
建築造作の時期撰定
見學旅行の道程相談
結婚緣組の性格鑑定
目的企業の成否豫斷
平市白銀町
石島陰陽館
電話六五〇番

高久病院
院長 醫學士 高久忠
副院長 新潟醫學士 赤羽淸
藥局長 藥劑師 佐竹菊雄
內科小兒科 外科花柳病科 耳鼻咽喉科
平市田町 電話五一三番
―◎看護婦至急募集―

實株は買ツテ御手元へ必ズ儲カル優良株
投資指針
◎支那事變公債四萬圓マデ買マス。
平市四丁目三十三
富岡株式店
電話二五八番



戰國間諜傳
大井沢能作
山科一郎畫

第一回
怪病（一）

元和元年（西曆一六一五年）の三月十五日、駿府城には、櫻の花がチラリチラリと散りかけて春の夕は夢のやうに艶かしく暗いてゐた。

氣に入りの美少年、七郎五郎を連れたつきりで、秀賴は忍びやかに、梢梯御殿に足を運んだ。おぼろ月夜の、まだ四つの太鼓の鳴り出さぬ前であつた。

「局、近う！」

秀賴は褥の端につくと、下座に手をついた玉の局に聲をかけた

「見たところ如何にも氣づかはしい容體ちやが典醫どもは何と申した」

「されば、道了どの、仰せには、これぞと申してお身內にお障りある譯でもなく、お脈なども平常と異つた節も見えぬ、と斯樣に申されました」

「うーむ、これは異なことを！」

秀賴は心もち微笑の中に皮肉を見せて

「五臟に格別の障りもなく、殊に平脈とあれば病人ではあるまい。その病人でもないものが寢床につき、食事も致さずに元氣なく惱み續けるとはこれは何ぞ仔細がなくては適ふまい、どうちや」

「御意の通りに存じます、したが上樣」

と玉の局は一膝にぢり出て聲を落し

「只、不思議に存じますのは日中の中は何でもありませぬが、夕方より御容體が變つて參り、時の移るにつれて次第〳〵に氣重くなられます、殊に子の下刻から丑の上刻にかけては、よくお惱みと思ふと不意に むつくと お立ちになつて、

「あれ〳〵、又參つた、早く追ひ退けて」と大聲に叫ばれ、時としてはお枕をとつて屏風に投げつけられ、お襖も破れる許り足蹴にされることなども御座います」

「蛇、女は口さがないもの、さまざまに噂を立てられてはお部屋樣の外聞、恐れ乍ら上樣の御威光にも關ります、お聞き遊ばしませ、お部屋樣から直々に承りました世にも奇怪至極なお話は……」

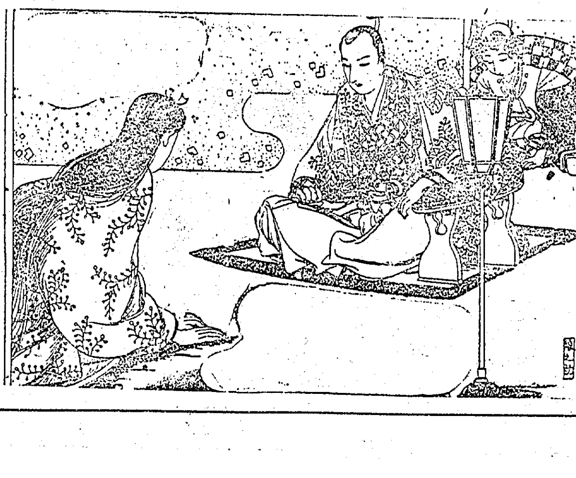
「うむ、如何いたしたといふのぢや」

秀賴の顏には相變らず蒼白い微笑の好奇の微かな笑ひが流れてゐる。

この梢梯の御殿には秀賴の寵姿お愛の方が住んでゐた。お愛の方は成田五平助近の娘で絶世の美人、秀賴も遂、心を動かされて、その腹に國松丸を生ませたので淀君のゆるしを得て後宮に入つた。

然し、秀賴には京極の孫娘に當る千姫といふ奧方がゐる、關東への聞えを憚つて只一人の國松丸を京都の常樂院へ遣はし、密かに養育させた程であつたから、千姫の手前、晴れてお愛の方と繁々逢ふことも出來ず、關白太閤の世繼、從二位、右大臣ともある身が儘ならぬ浮き世を恨んでゐた、

そのお愛の方が先頃から不可思議な病氣にかかつて、[illegible]をひねつているのであつた



御馳走は皆で食べよう

高野富子

時局下における私どもの家庭生活は、買入れる物價の消費消耗工合について、また一家所得の收入面についてその他あらゆる面から試驗をされてゐるやうな現狀であることに、戰時産業や軍需工業から直接間接の利潤を受けてゐる、いはゆる景氣のよい家庭は、この際それによつてどれだけ生活の質實を向上させるか、または却つて下落させつゝありはしないかと、世の注目が注がれてゐる

×

例へば「主人一人が御馳走をたべ收入を勝手に使ひ、甚だしいのになると、夕食は外で食べて來て、家族と食事を一緒にしない」とか「主人の收入を主婦に知らさず、主人一人が物喰や料理屋に行き、主婦は何時までたつても一家の經濟生活から除外されてゐる」といふ風な實情をきくが、今日の戰時景氣はうつかりすると我國の醇風美俗たる家庭の團欒をさへ吹きとばしてしまふ恐れなしとはいへない、收入が増しても、多くは飲食につひやしてしまひ、てんや物を取つてたべたり、割高く極めて不經濟につく新調の衣類に見榮を誇つたりしてゐるのでは生活は決して向上しない。

×

この際、本當に主人も主婦も協力して、増加收入を將來の子供の教育や、住宅を自分で持ち、獨立する資金に貯蓄し、主婦も料理や家事を學んで、主人はじめ全家族が榮養ある食事を樂しみ、家庭が樂しく團欒できるやうに、本當の生活刷新と向上に努めたいものである

おロに御要愼！

心の秘密も話振りで

（すつかり見破られます）

このお話は人相學に類するものですが、ただ馬鹿にしてお讀みにならないお孃さんはいゝお友達が不思議に貴から遠ざかつて行きます、ソレはホント……

女はあまり高い聲をするのはよくない頭のてつぺんから突きぬけるやうな金切聲は、おつむの大してよくない證據、こんな女性は夫の運をわるくすると昔からの傳說

△…殿方は聲の大きい程良い、身長が小さくて聲の大きいのは特によろしい、秀吉までゆかぬとしても、秀吉はその典型である、とにかく、人の上に立てる人である。反對に

他人に聞えぬ低聲で、密に話をして居るには性格陰險で、餘り大きな聲は性質が强過ぎて、夫との折合が惡くなり勝ちである。

△…話をするときに口許に泡を含むことまるで馬のやうな人があるが、あれは不運の行爲も平氣でやり、色情については過失をなし結局は不運の生涯を送る人である

話しをするとき、眼を閉ぢる癖の人があるがこれは油斷のならぬ人柄、又話をするのに唇を嚙め、あるひは齒で唇を押へるのは思ひ那絕えぬしるしで、心持も油斷のならぬところがある

△…話をするのは先づニツコリと笑ひをふくんで話をするのはよくて成功するが、男は物事に愛嬌、女はどうも愛嬌がありすぎて情事について失敗する心配があります

—野に遊ぶ—

藥の注意書はよく守りなさい

オブラートもよしあし

藥を飲む時は、よく注意書をよんで間違はないやうにするのは當然ですが、よく食前食後の服用時に無頓着だつたり、食後三十分と書いてあつても、うつかりしてそれを守らぬ場合も少くありません、注意してある以上はいづれも大切な理由があるわけですから、よく守らなければなりません

食　前食後と分けてある理由は、元來藥はお腹のもつとも空いた食前に飲んだ方が胃から腸へ早く送られ、吸收も極めて早く完全なので効力があるのですが、然し藥によつては胃壁を刺戟して害をなすものも多い、それでかうした藥は食物でうすめて胃を刺戟させず腸へ送らなくてはならない、したがつてこの種の藥は食後に服用するのです、この理由とは別に、消化劑だけは必ず食後に飲むのは當然でせう

近年どんな藥でもオブラートに包んで飲みたがるのは困つたことです、昔から良藥口に苦しと言つてぐつと我慢して苦い藥をのんでこそ効くと言はれたものですが、然し腸に行つてからはじめて吸收されるやうな藥ならばオブラートで包むのがよいとしても、健胃劑などはオブラートで包んだために胃の運動刺戟や消化液の分泌促進の効を失つて、きゝがなくなります

オ　ブラートは胃まで來てもとけない、風邪藥のやうなもので胃を荒さぬやうに健胃劑が混つてゐるからオブラートの必要はない、服藥の際の水は、健胃劑が一番よく、冷水は胃の筋肉を縮めて腸へ送る力が弱まるからいけない、番茶もよいが然し、麥藥、アルカロイド類、タンニン酸類の入つた藥であると茶の成分に妨げられて効力を失ひ、却つて害になることもあるから御注意下さい

來訪時間を知らす手紙

何日何時におたづねしたらいいか…といふ問合せはよく起る問題である、この場合、時間を知らせる方では、よほど差し迫つた急用がない限り、次のように、頃といふ文字をつけることを忘れてはいけない、何時と正しく時間を指すとその時刻を守るためにいろくに氣苦勞をさせられるものである

次に掲げる文例は親密な人の間で行はれる來書文の一例である

拜復御手紙拜見いたしました毎日午前中は家に居ります、しかしなるべく午前十時頃御來車下さい、取りあへず御返事まで　早々

洗顏は極端にならぬ様

洗顏クリームばかり使つてゐる人と、石鹸でゴシゴシ一日何回も洗顏する人、あまり極端になつてはどちらもいけません。石鹸による洗顏は多くて一日二回柔らかい布で靜かに洗ひます、その他は洗顏クリームをマッサージするやうに使つて下さい

婦人のとは性質が違ふ

男ののぼせ

▽…血壓が問題になる！

更年　期の御婦人にのぼせ症がありますと同様に、年配の男子にものぼせて困るといふ方がありますが、男子ののぼせは女子の生理的なものと違つて、血壓の高すぎるものとか、反對に極度に低いものに見うけます

血壓からいへば高血壓の場合が多いのですが、あまり勉強しすぎた場合とか、心配ごとが多かつた場合などにのぼせるのは低血壓に多いやうです

これらの場合は安靜にして頭をひやして寢るとか、鎭靜劑（又は血壓の低くなる藥）を嚥んで

横臥　するのが第一です、そして食物は、刺戟の強いものや蛋白性のものは出來る丈避け、あつさりしたもの又は果物をとるなどがよいでせう

一體にのぼせといふのは、痛みと違つて何となく頭が重いといふ症狀で、疲れてくるとおこらなくなるものです、體質からいへば、肥滿した人、やせた人、神經質の人に多く見受けますのぼせにはこの他、腎臟炎（強くなるとはきけを伴ひます）心臟病を始め疲勞、眼をこはして視弱した時にも起きます

梅毒　性のものは夜間におこるのが特長です、これらは梅毒のもとで原因を治療するのが肝要です

なほ、喫煙や、下戸ののみすぎでも、頭がおもく、めがまはりのぼせたやうになることがあります、この場合は脈が不定になり、下痢又は便秘を伴ひ勝です

はき氣を催す偏頭痛、耳鳴なども一見のぼせのやうですが、少し意味が違ひます、後者の場合は神經衰弱で刺戟した結果ですから、安靜にすればなほります（服部病院二階博士談）

お小遣ひ奬勵！

兒童問題を研究してゐる伊藤博士の好例に「子供の問題だけは机上の考へではいけません」といふだけに、すべてはきはめて實際的です、手近な處からといふわけで、何かにつけ實驗材料に使はれるのは女史のお子さん方。「子供はお金をどう使ふか」といふ研究をはじめた女史、例によつてお子さん方にお小遣ひを與へてはその使ひぶりをつぶさに觀察してゐる。ところが當のお子さん方「いちいち使ひ途をきかれるのはいやだな、お客で小遣ひがいつでも貰へていゝや」は母の心子ら知らずといふところ

蠅の驅退法

藥品や器具の次は色紙で

早期のうちに殺せなかつた蠅が、早くも成蟲となつてお臺所やお便所の窓口等を出入りし始めました。大きくなつた蠅は市販のいろくな器具などを使つて殺蟲劑に捕獲されねばならぬはもちろんですが、またお臺所や赤ちゃんの寢室、客間、便所などの蠅を防ぐには石炭酸水（五百瓦十七錢）かクレゾール石鹸液（五百瓦七十錢）のいづれかを二%溶液とし週一回ぐらゐの割りで雜布がけされゝば、衛生的なばかりか、蠅はそれぞれ特殊の臭氣を極度に嫌つてよりつかぬものです。

寢室　や客室などは、酸の結晶（一オンス廿五錢）を十倍乃至廿倍の水にとかして、これをネルなどの小布に滲ませて皿にのせ、一部屋に一個宛り置きますと、やはりその發散する臭氣によつて、かなりな効果をあげることができます。併し以上のやうな特臭あるものでは、蠅ばかりか人さへ嫌ふ場合もあるので、そのやうな時にはかれ等の忌む色によつて驅退さすより外なく、てんで部屋を暗くするか、できねば窓に次いで赤、綠、黑のいづれかの布または紙を、天井のところぐに吊りさげるか、茶だんすなどに貼りまはされても同じ効果があります

上等の女中さん

女中が奥様より美人だといふことは、往々にしてある。しかし、女中の方が奥様より賢い―學問がある―といふことは、滅多にないのである。

ある家で若い奥さまが、現代語譯の源氏物語りを買はうとして、うつかり女中に一圓渡したら「あれは二册と一圓に入つてゐて二圓でございます」といつた。「どうして知つてゐるの」と訊ねたら「もう買ひました」と答へたので若奥樣が呆れたさうである―なるほど呆れる話に違ひない。その若奥樣はあとで人に曰く「きつと婦人雜誌にある小說のやうに困つて買つたのでせうよ」

これは、どうも女中を頭から馬鹿にしたような話で天下の御女中各位に對して恐縮の至りであるが、世間には家庭一朝にしてくつがへり、女學校を中途でやめて女中に行くといふお孃さんもあらうし、文學博士の家で働いてゐたのが係屋の番頭の家へ女中に入つて、成上がりの奥さまを輕蔑する場合もあらうといふものである、映畫「路傍の石」ではコキ使はれてゐる少年店員が坊つちやんの算術の宿題をしてやつてゐるお孃さんの準備教育を側からもどかしがつてゐる女中だつて無いとは思はれない。女中はだまつてゐるからわからないだけの話である。

尤も、あんまり女中を高く評價しすぎるのもヘンなものである。ある家の女中がご主人の書齋に入つて、大衆百科全書を五册借たいといつたので、主人公大いに感心し流石に學者のうちに來る女中は違ふワイと、友人に自慢した。然し、いつたい何を調べてゐるのだらうと、その主人がそつと女中部屋に入つてみたら、大衆百科全書を積んで踏み台にして、戸棚の整理をしてゐたさうである。―

新時代の手紙

候文か口語文か

植原路郎

さて手紙を書かうとして、誰しも最初考へるのは、候文にしようか口語文にしようかといふことである、今日手紙の文體は候文から口語文へと移りつゝあるが、何といつてもすべて手紙は相手の心を動かすのが第一條件であるから、失禮にならぬやう、よく場合を考へて候文と口語文とも使ひ分ける必要がある、一般に儀禮を主とした文、例へば、結婚披露狀の如きものには候文が用ひられ、寛いだ日常の便りには多く口語文が使はれるまた商用文に於ても大體候文が慣用される、儀禮の一種ではあるが、年賀狀の如きも口語文になると多少親味を加味してもよいので、相手次第で候文、口語文兩方とも使はれてゐる、然し手紙の文體は候文でなくてはならぬ口語文ではなくてはならぬといふきまりはない、目的は意志即ち自分のおもふことをそのまゝ先方へ傳へることにあるわけだから、それに適ふやうにすればいゝのである、とはいへ先輩や目上に對し初めて手紙を出す場合には、候文を用ひるのが無難である

大陸行進譜
大川兵五作
若山珠美畫

第五十二回

喜びの家（五）

昭和二千五百九十九年―戰捷の光輝ある新年が明けたのである。

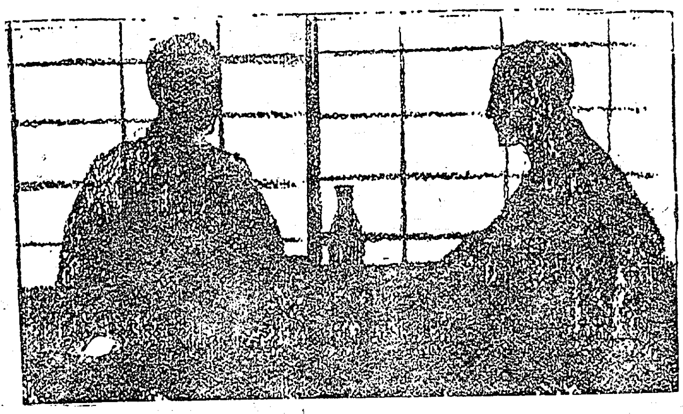
街の通りも、家々も、非常時らしくひつそりとして、醉つて通る人の姿も見受けられなかつた。

北上の家には、戰捷と共に、祝福さるべき希望の春が訪れたのであつた。

「おい、北上、美佐子さんはどうだ」

木村の聲がした。

北上の家では、二三の友人が寄つて、朝から盃を取り交はしてゐた。



「何がどうだ？」

北上は初めて着たモーニングを脱いでワイシャツ一枚であつた。

「へへ、知らん顔をするな」

學生らしい、無遠慮な聲である。

「木村、よけいなことを云はんで飲め」

醉顔の遠山は、大の盃を木村に差した。

「北上がいらないなら、俺の女房にくれ」

頭を亂にした木村は、美佐子の方を見て笑つた。

「まあどうぞ」

美佐子が酒をつがうとすると

「どうだ、どうぞだとよ、ワッハッハッ……」

木村は額をポンと叩いてたゝきながら笑つた。

「こら、木村、品物でも貰ふやうに、あつさり云ふな」

遠山は、まだ醉が來ず平然たるものである。

「美佐子さん、ビールを持つて來て下さい」

北上はさう云つて頭を掻いた。

「おい北上、二三日前に、双葉嬢がお來たぢやないか、どうしたんだい？」

遠山が聞いた。

「うーん、何でもないんだよ、自分の家にゐないさうで………どこだか分らないらしいよ」

双葉の事はもう遠山といふ氣持であつた。

「あれだけのなア、立派な腕を持ち作らな、無出家の惡いばかりにあゝもなり果てたのか？……おつとどつこい、これは云ひ過ぎたご免く」

遠山は輕蔑な氣質で、人におちもせずお世辞もない代りに、云ひたいことは、ずけくといふ、率直な男なのである。

「さあく何にもございませんがご酒なりと澤山召上つて下さい」

すつかり元氣を取り戻した杉江未亡人は、自分でビールを持つて客間に及んだのである。

「お母さん、弱いふ息子をもつて、結構ですな。お母さんも、からだを丈夫にして、とんないゝ息子のために、せいぐ長生きして下さい。それでお母さん一杯」

遠山は盃を打ふつて、杉江未亡人に差した。

「ええ、せいぐ長生きをさせていたゞきます」

「お母さん、美佐子さんにも一杯して下さい」

「大丈夫ですか」

「大丈夫ですよ、この子にも苦勞をさせましたからね、お酒までのむやうになりましたよ」

遠山がさう云ふと、木村がすかさず云つた。

「苦勞をさせてるんぢやないか、美佐子に苦勞させるのは誰だ？といひ度いところだ」

みんなの視線が、云ひ合はしたやうに美佐子の顔に行くと、彼女は顔をカッと紅くして行つて終つた。

花柳病科外科
本村外科醫院
平市南町（警察署通り角）電話三〇九番

メガネは！
玉屋
平市二丁目

◇診療科目
一、齒科一般
保存科、補綴科、繼續架工科
小兒齒科、槽膿漏科、齒列矯正科
一、口腔外科
一、レントゲン科
平市田町（松月堂向）
中野齒科醫院
電話五〇九番
院長　日本齒科醫學士　中野德次
日大齒科醫學士　鹽谷伍郎
補綴部主任　佐藤重義

夏!!!
夏は福壽軒の蜜豆から！
フルーツミツ豆
あんみつ豆
苺ミルク…フルーツポンチ…御座います。
是非!!御召上りを……
福壽軒食堂
平市田町
電話二八番

少年少女
給仕入用高給面談

Refinetex
新裝　夏の洋服
ポーラー　A ¥49.00ヨリ
プレスコ
テレクトラー　B ¥59.00ヨリ
ロバートテツクス　C ¥69.00ヨリ
各種純毛取揃へ
大崎屋洋服店
平銀座　電96

五月人形
尙武日本に尙武節句あり!!!
◇勇ましい武者人形◇
◇鯉のぼり◇
◇甲冑類◇
各種豐富に取揃へました
是非！一度御覽下さい
平市二丁目
フクタヤ祝品部

鐵管代用　エタニツトパイプ

	耐壓封度	内經	一本ノ長サ	一本ノ價額	ギボルト繼手代
D級	250	50ミリ	3m	3.76	2.25
〃	250	75	3	5.58	2.75
B級	100	100	3	5.80	4.05
〃	100	150	4	13.20	6.07

平市仲町通り
山田文一商店
電話262番

お醬油はヤマフル
醬油　味噌
たひら正宗
鰹節　食料品
福島縣平市
釀造元
鹽屋
電話一〇二七番
明治生命磐城代理店
山崎與三郎

吉田眼科醫院
平市紺屋町　電話六八番
醫學士　吉田久雄

三井タクシー
平二　電話六八五番

五月人形―大賣出し
銃後の護りは健康兒
兒童愛護の精神から
お子樣の將來に幸を祈る尙武節句を盛大に行へませう。
スガノヤ提燈店
平市四丁目（電話九五番）

定價　20錢　30錢
平市古鍛冶町一〇
阿康藥局
電話四四番
振替東京三〇〇六五番

銃後の皆樣喜んで御使用になる
糸イラズ
綿布、綿糸、毛織の折柄古き破れた足袋、靴下、メリヤス、ジヤケツ其他何品に依らず活かして御使用出來ますから一家の經濟は勿論ひいては國家の經濟は莫大のものとなりませう
男子の方や御子樣方でも容易に修繕が出來ます
糸や針がなくても立派に仕上りますから此の非常時の場合是非一家に一個御揃へ御使用下さい

磐城セメント會社特約店
釜屋商店
磐城平市五丁目
電話九・九九
□良品廉賣に勝る商略なし
□確實敏捷は久の生命なり

平病院（電六四一番）
平市警察署側【元共濟病院跡】
院主　院長　醫學博士　鈴木定藏
内科　院長　鈴木定藏
小兒科　副院長　土井利明
内臓外科・一般外科・皮膚泌尿器科・レントゲン科　副院長　高橋俊幸
物理的療法科　院長　鈴木定藏
藥劑科　部長　吉本孝平
◎診療時間　毎日午前八時ヨリ午後九時迄（夜間診療ニ從ス）（急患ハ此ノ限リニアラズ）
往診隨時
病室完備…入院隨時【自炊ノ便アリ】
入院料　一日　特等貳圓・一等壹圓五拾錢　二等壹圓參拾錢